

**受賞企業発表！****「ひょうご優良経営賞」(知事賞) 1 社、奨励賞(会頭賞) に 3 社に決定！**

～平成 24 年 6 月 8 日(金)に「クオリティホテル神戸」にて表彰式・講演会を開催～

兵庫県と神戸商工会議所は、平成 23 年度より「ひょうご優良経営賞」を創設し、県内の中小企業を対象に卓越した経営の仕組みを有し、実践している企業を表彰する制度を運営している。

本制度は、公益財団法人日本生産性本部『実効力ある経営』認証評価制度の認証を基準として表彰するもので、このたび受賞企業 4 社(知事賞 1 社、会頭賞 3 社)を決定した。

表彰式は、平成 24 年 6 月 8 日(金)14 時から、クオリティホテル神戸(神戸商工会議所東館)で開催する。

当日は、表彰式のほかに、講演会として、社員満足や顧客満足の観点から優れた経営を行う企業を紹介するビデオ教材「DO IT!」の編集長で㈱ブロックス代表取締役社長の西川敬一氏を講師として招く。

**■ 受賞企業****◆ひょうご優良経営賞(兵庫県知事賞) …1 社**

	会社名	代表者名	所在地	従業員数	認証結果
1	株式会社 栄水化学	松本 久晃 氏	尼崎市	140 名	「継続」認証

**◆ひょうご優良経営奨励賞(神戸商工会議所会頭賞) …3 社**

	会社名	代表者名	所在地	従業員数	認証結果
1	Earthink 株式会社	崎野 哲史 氏	三田市	4 名	「導入」認証
2	白鷗 株式会社 ホトサービステーション部門	羽田 憲司 氏	神戸市	12 名	
3	株式会社 ラフト	濱嶋 一陽 氏	神戸市	350 名	

**■ 表彰式及び講演会**

日 時 6 月 8 日(金) 14 時～16 時

場 所 クオリティホテル神戸 16 階「バルセロナ」

内 容 〔第 1 部〕表彰式(ひょうご優良経営賞、ひょうご優良経営奨励賞)  
〔第 2 部〕講演会「ひとの心が輝く経営

～社員の幸福を追求する経営者から学んだこと～

株式会社ブロックス 代表取締役社長

(「DO IT!」編集長) 西川敬一氏

**■ 添付資料**

- (1) 資料 1 「ひょうご優良経営賞」について (資料作成：神戸商工会議所)
- (2) 資料 2 「認証評価企業の概要と認証理由」 (資料作成：公益財団法人日本生産性本部)
- (3) 資料 3 『実効力ある経営』認証評価制度について (資料作成：公益財団法人日本生産性本部)

以 上

**【お問い合わせ先】****◆ひょうご優良経営賞**

神戸商工会議所 経営支援センター(住谷・平井)

Tel : 078-367-2010 / Fax : 078-371-3390

**◆『実効力ある経営』認証評価制度**

(公財)日本生産性本部 経営品質推進センター(柳本・布施) Tel : 03-3409-1117 / Fax : 03-3409-1167

## 「ひょうご優良経営賞」について

### 1. 概要

「ひょうご優良経営賞」は、県内中小企業を対象に、卓越した経営の仕組みを有し、実践している企業を表彰し、経営品質の向上を支援することにより、県内企業の競争力を強化するとともに、経営力の向上を図ることを目的として、平成23年度から兵庫県と神戸商工会議所の共催にて実施しています。

公益財団法人日本生産性本部が推進する『実効力ある経営』認証評価制度と連動する中小企業参加型の表彰制度です。

### ※『実効力ある経営』認証評価制度

「経営品質向上プログラム」の考え方を参考に、中小企業でも取り組みやすく、効果性を確認しながら経営革新に取り組むためのツールとして開発された「マネジメント強化プログラム」を活用しています。認証レベルは、「導入認証」「継続認証」「上級認証」の3段階です。経営の質を高めながら認証レベルを上げていくことで、「日本経営品質賞」にチャレンジするための経営基盤の強化が図れます。

### 2. 目的

県内中小企業を対象に卓越した経営の仕組みを有し実践している企業を表彰し、経営品質の向上を支援することにより、広く県内企業の競争力を強化するとともに経営力の向上を図ることを目的としています。

### 3. 対象者

県内に事業所を有する中小企業で、優良な経営の仕組みを公表できる者

### 4. 審査方法

公益財団法人日本生産性本部の『実効力ある経営』認証評価制度を活用します。

### 5. 表彰対象

審査の結果、一定基準以上の優れた経営の仕組みを有する企業を表彰します。

### 6. 研修会

「ひょうご優良経営賞」への申請を目指す中小企業経営者の方を対象に次の講座を設けています。

- ・神戸商工会議所…KCCI 経営革新塾 戦略実践コース
- ・日本生産性本部…マネジメント強化プログラム「ステップアップコース」

2011 年度下期『実効力ある経営』認証評価企業の概要と認証理由

<継続認証>

商号	株式会社栄水化学
所在地	兵庫県尼崎市築地 2-6-25
代表者	代表取締役社長 松本 久晃氏
資本金	1,000 万円
従業員数	140 名
事業内容	ビルメンテナンス業
認証理由	エンドユーザーを顧客と認識することを通じて顧客価値を再定義した。顧客の声を集め、新たにロビー内の美観に着目したサービスを提案すること等の取り組みを通じて高い価値を生み成果を上げた。これらを踏まえ、マネジメントの実践と学習が継続的に行われている組織として、「継続」認証レベルにあると判断した。

<導入認証>

商号	Earthink 株式会社
所在地	兵庫県三田市南が丘 1-40-34
代表者	代表取締役 崎野 哲史氏
資本金	1,500 万円
従業員数	4 名
事業内容	卸・小売業（インターネット通販）
認証理由	より多くの顧客に利用してもらえるようサイトでの多店舗展開と商品品揃えを拡大している。また、それに伴う発送量の増加に対応するために、社内業務の生産性向上への取り組みを実施している点や、既存のリピーター顧客分析に取り組んでいる。これらの取り組みを踏まえ、計画したことを確実に実行する力がある組織として「導入」認証レベルにあると判断した。

商号	白鷗株式会社 ホットサービスステーション部門
所在地	神戸市中央区江戸町 95
代表者	代表取締役 羽田 憲司氏
資本金	7,000 万円
従業員数	12 名
事業内容	環境消毒サービス
認証理由	過去 3 年間に渡り、安心・安全・感染リスクの防止や、コスト削減・商品価値向上を目的とし、高温消毒サービス事業を立ち上げ、これまでにない組織体系で試行錯誤を重ね、売り手視点の価値定義から「高温消毒サービスを通じての快適な生活空間の提供」という顧客視点の価値定義を設定した。これらの取り組みを踏まえ、計画したことを確実に実行する力がある組織として「導入」認証レベルにあると判断した。

商号	株式会社ラフト
所在地	神戸市須磨区古川町 1-3-16
代表者	代表取締役社長 濱嶋 一陽氏
資本金	3,000 万円
従業員数	350 名
事業内容	福祉施設給食
認証理由	介護施設に対して「安全・安心おいしい食事を個別対応する」という顧客価値を明確にしている。戦略とアクションプランでは適格要件を中心に安全の遵守、セントラルキッチン導入に伴う新メニューの充実、栄養士・調理師の能力向上、低コスト化のための仕入れ管理に取り組み成果を出している。これらの取り組みを踏まえ、計画したことを確実に実行する力がある組織として「導入」認証レベルにあると判断した。

※【参考】兵庫県以外の他地域の認証企業（2社）

<導入認証>

商号	ダイセイ倉庫運輸株式会社
所在地	愛知県小牧市入鹿出新田字新道 900
代表者	代表取締役社長 吉田憲三氏
資本金	4,000 万円
従業員数	348 名
事業内容	倉庫業、一般貨物自動車運送業、自動車運送取扱事業、梱包業、産業廃棄物収集運搬業
認証理由	規制緩和により新規参入業者が増加し、競争の激化による運賃の低下が著しい状況に加え、燃料価格の高騰や排ガス規制等によるコストアップが生じる中で価格転嫁が難しく、コスト競争力が求められる運送業界の中で、「ジャスト便システム」をコアとして顧客価値に基づくマネジメントが導入され、そのマネジメントが日常的に実施され始めている組織として、「継続」認証レベルにあると判断した。

商号	東海技研株式会社
所在地	神奈川県川崎市高津区千年 541-4
代表者	代表取締役社長 川久保 洋氏
資本金	1,000 万円
従業員数	72 名
事業内容	駐輪場/駐車場管理システム機器の製造販売
認証理由	駐輪場の利用者には便利な利用環境、管理者にはシンプルで確実な管理ができる価値を提供している。利用者と事業者という駐輪場のビジネス特性をとらえその両方にとっての価値提供を追求するために、業界情報に頼った機器開発・運営から、現場の声に基づく開発・運営に取り組んでいる。これらの取り組みを踏まえ、計画したことを確実に実行する力がある組織として「導入」認証レベルにあると判断した。

以上

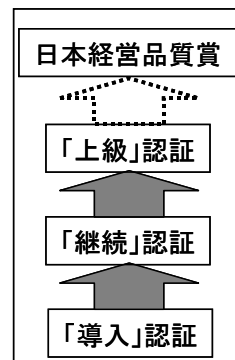
## 『実効力ある経営』認証評価制度について

### 1. 『実効力ある経営』認証評価制度とは

中小規模企業を対象に、「マネジメント強化プログラム」を実践し、これまでの経営を振り返りながら課題解決のための実効計画を経営者自らが策定、6か月間の計画進捗結果と合わせて第三者（認証評価チーム）が評価し、最終的に確実な計画の達成と成果を上げる企業を、『実効力ある経営』委員会が認証評価する制度で、財団法人日本生産性本部が2009年12月に創設。本制度は、経営課題内容とその成果に応じて、「導入」・「継続」・「上級」の3段階を設定している。最上位の「上級」認証後は、同本部が行う日本経営品質賞や地域経営品質賞への挑戦を促す。

\* マネジメント強化プログラムとは、日本生産性本部が独自に開発した、①自社経営課題の振り返り、②実効計画の策定とコミットメント、③経営課題解決への実践、までの一連の経営改善プログラム。

#### <認証の位置づけ>



### 2. 『実効力ある経営』認証評価体制

#### (1) 認証評価委員会

「実効力ある経営」を認証するための評価組織。「認証評価グループ代表」から全結果報告を受け、認証を決定する。

メンバーは以下の通り。

委員長：小笠原 泰氏（明治大学 国際日本学部教授）

委員：立松 裕之氏（日本商工会議所 中小企業振興部長）

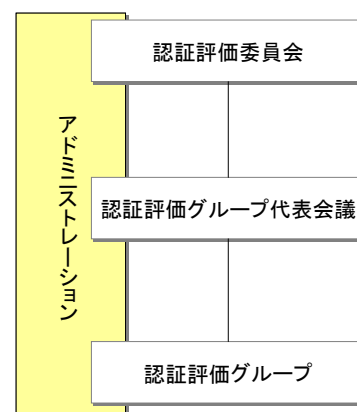
委員：角田 信之（日本生産性本部 理事・コンサルティング部長）

#### (2) 認証評価グループ

「実効力ある経営」認証のための評価者集団。役割に応じて、主任認証評価者と認証評価者に区分し、主任評価者の3-5名で「認証評価グループ代表」の役割をもつ。

認証評価は、導入認証は1名の評価者、継続および上級認証では2名（主任認証評価者と認証評価者）でチームを構成し、申請企業から提出された「振り返り結果」、「実効計画とコミットメント内容」、「5か月間の計画進捗結果」を読み込み、フォーマットに基づいて主任評価者がチームとしての「認証評価フィードバックレポート」を作成し、「認証評価グループ代表」に提出する。

\* 「導入」・「継続」は書類評価のみ。最上位の「上級」は、書類評価に加えて現地評価を行う。



### 3. 『実効力ある経営』認証評価の主要プロセス

#### (1) 経営者自らが、過去を振り返る

- ① 3年間の重要な企業業績の推移を振り返る
- ② 重要な活動に焦点をあて、マネジメント（計画・実行・評価・改善のPDCAサイクル）を評価する

#### (2) 経営者自らが、マネジメント・戦略の課題を発見する

- ① 顧客にとって重要な価値を生む5つの活動に焦点をあて、マネジメント・戦略の課題を発見する

#### (3) 経営者自らが将来を創造する

- ① マネジメント・戦略の課題を解決する実効計画（いつまでに・どのような方法で・何を達成するのか）を作成する

#### (4) 改善活動を実施する

- ① 作成した過去の振り返りから実効計画までの内容を、インターネットの定型フォームに登録(コミットメント)し、実効計画の進捗状況を毎月登録する(進捗レポート)。
- ② 実施期間は6か月から1年を継続的に行う

#### (5) 認証評価チームがこれまでの改善活動を評価する

- ① (1)－(4)の改善活動を、2名の認証評価チーム(導入認証では評価者1名)が、10項目の認証基準に照らして評価する
- ② 認証評価チームは、さらなるマネジメント力向上のために、次年度以降の取り組みの方向性を示すフィードバックレポートを作成する

#### (6) 『実効力ある経営』認証評価委員会が認証を決定する

- ① 認証評価チームによる評価をもとに、最終的に「導入」・「継続」・「上級」の3段階の認証を行う

### 4. 『実効力ある経営』認証評価基準一覧

項	基準	基準の意味
1	顧客価値の明確さ	新たに作成された戦略に示された顧客ターゲットとその提供価値が明確であり、背景も含めて妥当性がある。
2	課題達成のための戦略有効性、具体性	新たに作成された戦略に示された戦略が、顧客価値実現と整合性がある。妥当性のある分析(SWOT)をもとに作成され、戦略内容も状況を踏まえた具体的なものになっている。
3	戦略目標達成のために取り組むマネジメント領域の効果性	15の活動領域から選択された活動内容が戦略との結びつきが深く、戦略目標達成に不可欠な領域が選択されている。
4	戦略目標達成のために取り組むマネジメント領域間の関係性	15項目の活動領域から選択された3から5の活動項目の組み合わせが戦略目標達成に効果が高いものになっている。製品・サービス価値を高める活動とそれに必要な能力向上という必要な組み合わせが考えられている。
5	実効計画の具体性と実現可能性	実効計画の記述内容が具体的であり、組織の力量を考慮している。月々の進捗状況から判断して、未達成はあっても、その対策が行なわれており、実現可能性が高い実効計画という判断ができる。
6	実効計画のリーダーコミットメントと組織での共有	実効計画の記述内容と達成目標から経営者の実行に対する姿勢が読み取れる。実効計画の実行にあたって、経営者がコミットメントし、計画実行の意味を組織で共有する働きかけが行なわれている。
7	実効計画のマネジメントの日常化	月々の進捗状況の内容から実効計画の実行にあたって、一貫したマネジメントサイクルが日常的に行われている。
8	実効計画のマネジメントプロセス改善	月々の進捗状況の内容から実効計画の実行にあたって、マネジメントプロセスの改善が行われ、より高いマネジメントに向かっている。
9	実効計画の活動目標達成度	設定した実効計画の活動目標が、達成時期に達成している。
10	実効計画による財務成果との結びつきと改善効果	実効計画の達成に対応する形で、重要な経営指標(売上、利益、生産性)のどれかに改善傾向が見られ、実効計画と実行有効性が判断できる。

### 5. 『実効力ある経営』の各認証レベルと評価領域

認証は、経営課題内容とその成果に応じて、「導入」・「継続」・「上級」の3段階を設定している。10項目のうち、各認証レベルの評価項目は、以下の通り。

項	基準	導入認証	継続認証	上級認証
1	顧客価値の明確さ	○	◎	◎
2	課題達成のための戦略有効性、具体性	—	○	◎
3	戦略目標達成のために取り組むマネジメント領域の効果性	—	△	◎
4	戦略目標達成のために取り組むマネジメント領域間の関係性	—	△	○
5	実効計画の具体性と実現可能性	△	○	◎
6	実効計画のリーダーコミットメントと組織での共有	◎	◎	◎
7	実効計画のマネジメントの日常化	◎	◎	◎
8	実効計画のマネジメントプロセス改善	△	○	◎
9	実効計画の活動目標達成度	△	○	◎
10	実効計画による財務成果との結びつきと改善効果	—	△	○

◎＝必須の評価項目 ○＝加点の評価項目 △＝あればよい程度の評価項目 —＝このレベルでは評価しない項目

**(1) 導入認証: 計画したことを確実に実行する力があるかどうかを、評価、認証する**

計画したことを確実に組織で実行するためのマネジメントが行われているかどうか認証のポイント。  
この認証レベルでは、戦略内容の質や効果的マネジメントにこだわらず「実践力」に着目。

<評価領域>

1. 製品・サービスの創造

<必須評価項目>

- アクションプランのリーダーのコミットメントと組織での共有
- アクションプランのマネジメントの日常化

**(2) 継続認証: マネジメントの実行と学習が継続的に行われているかどうかを、評価、認証する**

マネジメントが定着し、顧客価値と実践による学習が行われているかどうか認証のポイント。  
この認証レベルでは、「実践力」だけでなく、「戦略とアクションプランの具体性」に着目。

<評価領域>

1. 製品・サービスの創造
2. 組織と人材の能力向上
3. 戦略や方針の策定
4. 社会的責任と社会貢献
5. 経営者が行う組織規範や風土変革

<必須評価項目>

- 顧客価値の明確さ
- アクションプランのリーダーのコミットメントと組織での共有
- アクションプランのマネジメントの日常化

**(3) 上級認証: 継続的なマネジメント改善が繰り返され高い成果を得られるレベルかどうかを、評価、認証する**

認証評価項目のほとんどで実現できていることが求められる。

この認証レベルでは、申請組織を訪問して、コミットメント内容の実施状況を複数の評価者が確認する。

以 上